山　662－2000・7・20（第三種郵便物認可）

第662号平成12年7月20日発行（毎月20日発行）
昭和49年8月31日第三種郵便物認可

平成12年度通常総会
収入予算、初めて一億円超える

JAC100周年に向けて抱負を述べる大塚会長

平成十二年度通常総会が五月二十日午後二時から、東京・三崎町の東京グリーンホテル水道橋で開かれた。総会には、会員百五十人が出席、①平成十一年度事業報告及び収支決算・財産目録承認の件　②平成十二年度事業計画及び収支予算承認の件　③平成十二年度除籍者の件―について慎重審議、活発な質疑応答ののち、いずれも原案どおり可決承認した。（事業報告等の詳細内容は別掲）

■会長報告
百周年への土台づくり進む

議案審議に先立ち、大塚博美会長は次のように報告した。

「私の任期は、やがてくる創立百周年に備えての土台づくりの期としたい、と考えてきた。百周年は、どういうことか、だんだんその骨格が見えてきた。抱負を述べたい。

第一は活発な、そして創造的な記念の登山である。アルパインクラブとして当然だが、ぜひ伝統を引き継いだ日本山岳会らしい登山を実施したい。第二は、記念誌として百年史をきちんと出すことだ。いま委員会で準備が進められており、むずかしい問題を多々かかえているようだが、文化的な事業のエベレストに挑戦と思っている。それぐらいむずかしい。会の全力をあげて支援したい。

これに関して痛感しているのは、海外から『日本の情報が伝わってこない』といわれていることだ。この一年間、米国、カナダ、中国、韓国、インド、ネパールなどの山岳会から表敬訪問を受けたが、『日本の登山活動は活発なのに、その情報がどうして伝わってこないのか』、といわれる。

百年史は英文でも、きちんとした

2000年（平成12年）
7月号（No. 662）
社団法人 日本山岳会
The Japanese Alpine Club
定価1部　150円

目　次

平成12年度通常総会 ……1
平成11年度事業報告書 ……4
収支計算書・正味財産増減計算書 5
貸借対照表・財産目録 ……6
監事監査報告 ……8
平成12年度事業計画 ……8
平成12年度収支予算 ……9
報告
ミニ水力実行委・発電装置完工10
科学・学生部・マッキンリー気象観測隊、10年を振り返る …10
自然保護委・森づくり体験記 11
医療委・登山医学シンポジウム12
海外連絡委・アルバータ登山に記者が同行 ……12
アルパインフォトク・総会……12
山げらの会・クロカンスキー 12
92同期会・新緑の丹沢へ……13
資料委員会・寄贈品2点の紹介13
「日中友好登山」計画について …13
海外の山 ……14
支部だより ……15
秋田、熊本、岐阜、北海道さんけんだより ……16
ルートファインディング考・中 18
新入会員・図書受入報告 ……20
会務報告 ……21
山岳博物館散歩・3 ……21
ルーム日誌・INFORMATION 23

▶ 日本山岳会事務（含図書室）取扱時間
月・火・木……10～20時
水・金……13～20時
第2、第4土曜日 ……閉室
第1、第3、第5土曜日 …10～18時
▶ ルーム夏期休室日 …8月12～20日

ものを出したい。いままでどちらかといえば、自分の殻のなかに閉じこもっていたが、日本山岳会の歴史と活動を広く世界に開示したい。記念の登山にはインターネットなどを活用し情報を広く伝えていきたい。

第三は記念事業だ。式典、展覧会・展示会、各種事業など。これは支部を含めて、八十周年、九十周年を経ての経験もあり、それほど心配はしていないが、財政的な備えはしていかなければならない。

これら三つの視点は定まったと思う。記念の登山など、まだ具体的には決まっていないが、とにかくやっていきたい」

■事業報告・収支決算
活発だった海外との交流

この日の総会には二千七百十八の委任状が提出された。三月末の会員は五千九百十五人であり、出席者を合わせると、会員の三分の一を上回っており、総会は成立した。議事録の署名人には中川幸平、染谷美佐子の両会員が指名された。

平成十一年度の事業報告は西村政晃総務担当常務理事、収支決算及び財産目録は村井龍一財務担当常務理事が詳細に説明した。

【事業報告】 全国支部、委員会、同好会を通じて活発な事業活動があった。

海外からは多くの人がみえた。カナダ山岳会のマイク・モーティマー会長、中国登山協会の曽主席、韓国山岳会のモン会長、ネパール山岳会のタシ・ザンブー・シェルパ会長ら。また米国山岳会を代表してアメリカン・アルパイン・ジャーナル編集長のベックウィズ氏が来日された。これに対し日本山岳会は中国、カナダなどを訪問した。海外交流は活発だった。

国内では、六月にはウェストン祭が信濃支部の尽力で開催された。九月には自然保護全国集会が栗駒世界谷地原生花園で行われた。十月には岐阜支部の主管で全国支部懇談会が大垣で催された。十二月には年次晩餐会が六百二十一人の参加を得て盛大に開催された。

このほか、ネパール・シバプリでのしゃくなげの植林、マッキンリー気象観測機器設置登山が引き続き行われた。九月には日中学生友好登山隊が中国・四川省の雪宝頂に登頂、上高地・山岳研究所ではミニ水力発電施設の設置が終了し、この五月に完成式があった。

【収支決算等】 収支決算は、収入が九千五百二十七万円となり、予算を千百九十二万円上回った。

予算外収入のうち、補助金収入の三百万円はネパールのしゃくなげ植林に対する環境事業団環境基金からの助成金。また、特定預金取崩収入として長期計画積立金を六百七十五万円取り崩したが、これは山研に設置したミニ水力発電施設に対するもので、東京電力および中部電力、原子力発電からいただいた四百七十五万円に加え平成九～十年度に計二百万円を積み立てていたもの。

会費・入会金は七千三百六十二万円で収入全体の七七・三パーセントを占めた。会費納入率は九七・四パーセントの高率を維持している。

支出は九千二百七十一万円で、予算を九百五十二万円上回った。上回ったのは、ネパールの植林事業、山研の水力発電施設のほか、管理のためのパソコン費用などである。

これらの結果、当期収支は二百五十五万の黒字になった。次期繰越は前年度より二百四十万円ふえて一千七百六十六万円。正味財産はミニ水力発電施設が加わったことなどにより、三億九千九百六十四万円となった。

図書について、平成十一年度は二百六十五冊の和書の受け入れがあった。この結果、和書は一万冊を超えた。洋書と合わせ計一万三千七百三十冊が図書室に保管されている。

これらに対し神崎忠男・中村保両監事から収支計算書等が正確妥当であり、さらに理事の業務執行が誠実に行われたことを認める監査報告があった。神崎監事からは「正確であったが、銀行預金などに長く固定していたり偏っているものがあり、資産の運用について考えたほうがいい」との発言があった。

■十二年度事業計画・収支予算
八月にアルバータ記念登頂

平成十二年度の事業計画・収支予算についても、西村常務理事、村井常務理事が詳細に説明した。

【事業報告】 主な事業は、①アルバータ二〇〇〇プロジェクトとしてアルバータ峰登山及びトレッキング②全国支部懇談会を東九州支部の主管で別府で開催　③日中友好二十周年記念事業を開催　④年次晩餐会にあわせ二〇〇〇年記念「山岳写真展」を開催　⑤マッキンリー気象観測機器設置登山隊の派遣（最終）―など。

アルバータ二〇〇〇プロジェクトにはトレッキングに八十一人が参加の予定。カナダ山岳会と合同で行うアルバータ登山は、槙有恒隊が登頂して以来七十五年ぶりとなる。

日中友好二十周年記念事業は、日中合同でチョモランマに北壁から登頂して以来、二十年たつのを記念したもの。中国と日本の学生が合同で

日本アルプスに登山すると同時に記念フォーラムを開催する計画。年次晩餐会での「山岳写真展」は、すでに公募しており、百数十点を展示する予定だ。

【収支予算】 これらに対する予算は、収入を前期繰越を含め一億二十七万円とした。初めて一億円を超える規模となった。会費・入会金収入が当期収入の八六・九パーセントを占める。受取利息は低金利を反映し七十万円から二十万円の大幅減額。

支出は前期比三百五十八万円増の八千六百七十八万円。その他事業費を四百万円ふやしたが、これはミニ水力発電施設、日中友好記念事業、二〇〇〇年記念「山岳写真展」などのため。運営管理費は、会員名簿を作成しないため計百五十三万円の減少。これらの結果、収支は四百十七万円のマイナスとなる。

平成十二年度の除籍対象者は六十三人となった。会費を二年間滞納した人が対象となる。実際の除籍者は、昨年度は三十四人、前々年度は三十八人だった。これに関し、知人に声をかけて会費を納めて留まるよう勧めてほしいという要請があった。また、報告事項として支部長の交代が紹介された。新支部長は次のとおり。

福井支部　宮本　数男
山陰支部　高田　允克
福岡支部　深田　泰三
熊本支部　工藤　文昭

■懇親会

総会終了後、午後四時から同所で懇親会を開いた。大森薫雄副会長が「日本山岳会のますますの発展を祈念したい」と音頭をとって乾杯し、和やかな歓談を続けた。

■質疑応答
山研の利用促進を

柴田篤志会員　山研の支出が四百四万円あったのに収入は二百二十一万円でしかない。このまま放置すれば、かつての国鉄のような存在になると危惧している。

坂本正智山研運営担当理事　運営期間は四月末から十月末の六カ月。この間に、六百五十～六十人の利用がある。昨年は釜トンネルの崩壊、一昨年は群発地震があり、大きな影響を被ったが、利用をふやすべく、さまざまな企画を立てている。ウェストン祭に時期を合わせて新入会員向けの集いを開催したり、音楽祭を開いたり、写真展、またスケッチ展を行ったり、山研運営委員も、とにかく努力はしている。会員の利用をさらに呼びかけていきたい。

柴田会員　会員の気質が変わってきているのだから、それに合わせて、個室を用意するなど、利用しやすいような環境を整えることも重要だと思う。

大塚会長　今後に期待してほしい。

石田稔郎会員　早池峰山で開催されたインターハイ、またこれに関連し、組織活動のあり方について三つ。インターハイについては、岩手支部がずいぶん苦労されたのだが、これに自然保護委員会が難色を示したようだ。支部いじめではないか。地域のことは支部にゆだねていいのではないか。この問題を機関誌「山」に投稿したが、掲載されなかった。なぜか。

また、関東に支部がないが、少なくとも群馬、栃木、茨城などには支部があってもいいのではないか。

竹内哲夫副会長　岩手支部の立場を十分に考え負担をかけないよう配慮しつつ、委員会もその線で動いたと思う。しかし、自然保護について、その精神の昂揚と活動の推進は日本山岳会の目的の大きな柱であり、本部がタッチする必要がないということは問題があるのではないか。自然保護を会報に載せないことはありえない。

大塚会長　関東に支部という問題は、意見として受け止めたい。

村井葵会報編集担当理事　自然保護についてはデリケートな問題が多々含まれているので、しばらく個人的な意見を載せるのを見合わせている。しかし、日本山岳会にとってプラスになることであれば排除しない。

織内信彦名誉会員　議案のなかに、「復活会員」という言葉が出てくる。かつて除籍された人が日本山岳会に郷愁を感じて再び会員になる、というので温かい措置とは思うものの、定款をみても細則をみても、そういう言葉は見当たらない。どのようにオーソライズされているのだろうか。確か、昭和四十年の六月だった。理事会で扱いを決定し、その時の議事録が機関誌「山」に掲載されているが、改めて理事会で検討されてはどうだろうか。

大塚会長　十分に検討したうえ、工夫したい。

山田二郎名誉会員　総会に提出された議案に「平成十二年度事業計画及び収支予算承認の件」とある。これは承認事項なのだから『案』とすべきではないか。

西村常務理事　本来なら総会で承認いただくのだから『案』なのだが、文部省に三月末までに事業計画・収支予算を提出しなければならない。『案』のまま提出できないので、このような形となっている。これは定款でも定めていることだ。

（写真・**伊藤敞**、文・**高橋重之**）

12月５日　年次晩餐会記念山行（集会）　筑波山
1月８日～10日　スキー懇親会（集会）　志賀高原横手山
1月９日　カナダ山岳会会長との合同会議（海外）　本会
1月21日　医療委員会講演会（医療）　本会
1月25日　中国登山協会代表団歓迎会（高所・海外）　東京グリーンホテル
1月30日～31日　アイスクライミング研修会（集会・指導・青年部・学生部）　八ヶ岳
2月5日～6日　総務委員会セミナー（総務）　富士学園
2月14日　アメリカ山岳会ベックウィズ氏を囲むシンポジウム（海外）　本会
2月18日　第28回山岳史懇談会（図書）　本会
2月26日～27日　全国支部事務担当者会議（総務）　東京グリーンホテル・本会
3月11日～12日　自然保護シンポジュウム「森を作り学ぶ」（自然保護）　高尾山周辺
3月16日　マッキンリー登山隊報告会（科学）　本会
3月25日　「高山植物」研究　研修会（自然保護）　本会

2．登山施設の運用、その他登山のための適切な事業
＊上高地山岳研究所の運用
＊受入れ資料保管
＊各博物館、美術館との提携強化
＊海外遠征の記録、会合、行事等の記録、フィルムのビデオテープ化による保存

3．山岳遭難の予防とその対策に関する企画および指導
＊遭難事例アンケート調査（遭難対策）
＊雪崩ビーコン講習会（学生）　栂池ヒュッテ

4．自然保護活動の推進
＊自然保護委員会による自然保護指導者の養成ための「山の自然学講座」
＊自然保護委員会会報「木の目草の芽」隔月刊行
＊ネパール・シバプリにおけるラリグラス（しゃくなげ）植林

5．機関紙等の発行
＊山岳94（1999）号の発行
＊会報647号～658号の発行
＊インターネットホームページの更新
＊役員・委員会名簿作成（総務）
＊会員名簿作成（総務）

6．国内および外国山岳団体との情報交換
＊国内関係団体（日本山岳協会・東京都山岳連盟・日本ネパール協会・日本ヒマラヤ協会・HAT-Jその他）との連絡
＊海外登山団体との機関紙の交換および情報誌の購入

7．海外登山等
＊６月６日～７月１日　第10次マッキンリー気象観測機器設置登山隊
＊９月３日～９月22日　日中学生友好登山隊「雪宝頂」

8．その他目的を達成するために必要な事業
＊山岳図書の整備
＊山研ミニ水力発電設置（ミニ水力発電実行委員会）
＊海外登山基金による助成
＊その他

(社)日本山岳会平成11年度事業報告書

1999.4.1～2000.3.31

1．山の指導と奨励に必要な集会、研修会、講演会、展覧会、及びシンポジウムの開催
4月14日　第30回山岳図書を語る夕べ（図書）　本会
4月22日　Mr. Soin講演会（海外）　本会
5月３日～7月２日　ウエストン資料特別展（資料）　上高地
5月11日　学生部総会（学生）　本会
5月15日　支部長会議（総務）　九段会館
5月15日　通常総会（総務）　九段会館
5月21日～22日　第19回日本登山医学シンポジウム（医療）　富山
5月21日～23日　若葉会山行（集会）　鏡山
6月５日　焼岳登山（山研）　焼岳
6月５日　ウエストン祭（信濃支部）　上高地
6月12日～13日　探索山行「火山ガスの危険を現地に学ぶ」（科学）　猪苗代町
6月13日　第６回古道を歩く（図書）　伊豆
6月20日　新入会のしおり作成（総務）
6月23日～24日　白神山地体験造林作業（自然保護）　白神山地
6月24日　第１回高層気象講座「高層気象を登山に生かす」（科学）　本会
6月26日～27日　小川山集会（学生部）　小川山
7月２日　第２回高層気象講座「高層気象の基礎」（科学）　本会
7月10日　長野高校100周年記念講演会（海外）　長野
7月12日　カナダ山岳会会長歓迎会（海外）　東京
7月26日　中国登山協会代表団歓迎会（海外）　東京
8月８日　岩登り研修会打ち合わせ（指導）　小川山
9月４日　医療委員会研究会（医療）　本会
9月４日　ビールパーティー（山研）　本会
9月11日　名誉会員を囲む会（総務）　本会
9月18日～19日　自然保護全国集会・自然観察山行（自然保護）　栗駒町
9月19日　自然観察山行　栗駒世界谷地原生花園（自然保護）　栗駒高原
9月20日　委員会・同好会連絡会議（総務）　本会
10月16日～17日　全国支部懇談会（岐阜支部）　大垣
10月26日　第８回山を語る（図書）　本会
10月31日　全国山岳博物館連絡会議（資料）　東京都写真博物館
11月４日　韓国山岳会会長歓迎会（海外）　東京都写真博物館
11月5日～7日　岩登り研修会（学生部・指導・青年部）　文部省登山研究所
11月６日　前期新入会員オリエンテーション（総務）　本会
11月13日　大学山岳部監督会議（学生）　日本大学会館
11月14日　自然観察山行　柳沢峠周辺ブナ林（自然保護）　奥多摩
11月14日　マラソン大会（学生部）　皇居外苑
11月14日～22日　インド山岳会ミレニアム会議（海外）　ニューデリー
11月26日　第31回山岳図書を語る夕べ（図書）　本会
11月27日　フォーラム「登山用具の新知識：選び方と使い方」（科学）　明治大学
12月４日　支部長会議（総務）　新高輪プリンスホテル
12月４日　年次晩餐会（総務）　新高輪プリンスホテル

修繕費	300,000	28,508	271,492	
租税公課	550,000	482,000	68,000	
光熱水道費	700,000	626,931	73,069	
電話料	400,000	457,362	△ 57,362	
会議費	350,000	225,392	124,608	
什器備品費	300,000	98,976	201,024	
振替手数料	650,000	644,200	5,800	
福利厚生費	280,000	241,790	38,210	
事務所管理費	1,000,000	938,115	61,885	
その他管理費	3,800,000	2,563,952	1,236,048	
負担金	150,000	150,000	0	
賃借料	3,240,000	3,240,000	0	
雑費	1,000,000	772,873	227,127	
管理費計	31,770,000	28,569,823	3,200,177	
3.固定資産取得支出				
什器備品購入支出	0	3,816,750	△ 3,816,750	(注)3
固定資産取得支出計	0	3,816,750	△ 3,816,750	
4.特定預金支出				
秩父宮記念賞基金支出	0	1,000,000	△ 1,000,000	
図書出版研究基金支出	0	0	0	
長期計画積立金支出	4,000,000	8,000,000	△ 4,000,000	
海外登山基金支出	0	0	0	
終身会費積立金支出	0	1,360,000	△ 1,360,000	
退職給与引当預金支出	1,000,000	1,000,000	0	
特定預金支出計	5,000,000	11,360,000	△ 6,360,000	
5.予備費				
予備費	1,500,000	0	1,500,000	
当期支出合計(C)	83,195,000	92,716,354	△ 9,521,354	
当期収支差額(A)-(C)	155,000	2,558,357	△ 2,403,357	
次期繰越収支差額(B)-(C)	15,257,754	17,661,111	△ 2,403,357	

(注)1「環境事業団　環境基金」助成金によるネパール・シバプリに於けるラリグラス植林　¥3,000,000-
2 山研水力発電施設建設費　¥4,157,763-
3 山研水力発電装置一式　¥3,816,750-

正味財産増減計算書

平成11年4月1日～12年3月31日

科目	金額		
Ⅰ．増加の部			
1．資産増加額			
当期収支差額	2,558,357		
秩父宮記念賞基金	1,000,000		
長期計画積立金	8,000,000		
終身会費積立金	1,360,000		
退職給与引当預金	1,000,000		
什器備品	3,816,750	17,735,107	
2．負債減少額	0	0	
増加額合計			17,735,107
Ⅱ．減少の部			
1．資産減少額			
棚卸資産	1,335,241		
長期計画積立金	6,750,000	8,085,241	
2．負債増加額			
退職給与引当金繰入額		1,000,000	
減少額合計			9,085,241
当期正味財産減少額			8,649,866
前期繰越正味財産額			390,998,621
期末正味財産合計額			399,648,487

収支計算書

平成11年4月1日から平成12年3月31日まで

科目	予算額	決算額	差異	備考
Ⅰ．収入の部				
1.基本財産運用収入				
基本財産利息収入	80,000	33,372	46,628	
2.会費・入会金収入				
入会金収入	5,000,000	4,620,000	380,000	
復活会費収入	0	140,000	△ 140,000	
通常会費収入	66,000,000	67,509,000	△ 1,509,000	
終身会費収入	0	1,360,000	△ 1,360,000	
会費・入会金収入計	71,000,000	73,629,000	△ 2,629,000	
3.事業収入				
広告料収入	3,000,000	3,272,300	△ 272,300	
印税収入	20,000	6,011	13,989	
刊行物頒布収入	200,000	212,100	△ 12,100	
その他事業収入	4,300,000	5,111,277	△ 811,277	
山研使用料収入	3,550,000	2,210,501	1,339,499	
事業収入計	11,070,000	10,812,189	257,811	
4.補助金等収入				
補助金収入	0	3,000,000	△ 3,000,000	(注)1
5.寄付金収入				
寄付金収入	0	24,000	△ 24,000	
募金収入	0	0	0	
寄付金収入計	0	24,000	△ 24,000	
6.雑収入				
受取利息	700,000	302,476	397,524	
雑収入	500,000	723,674	△ 223,674	
雑収入計	1,200,000	1,026,150	173,850	
7.特定預金取崩収入				
長期計画積立金取崩収入	0	6,750,000	△ 6,750,000	(注)2
当期収入合計(A)	83,350,000	95,274,711	△ 11,924,711	
前期繰越収支差額	15,102,754	15,102,754	0	
収入合計　(B)	98,452,754	110,377,465	△ 11,924,711	

(注)1「環境事業団：環境基金」助成金植林　¥3,000,000
2 山研水力発電施設建設費　¥6,750,000

科目	予算額	決算額	差異	備考
Ⅱ．支出の部				
1.事業費				
出版費	11,800,000	10,393,188	1,406,812	
図書管理費	600,000	185,712	414,288	
調査研究費	2,965,000	5,046,494	△ 2,081,494	(注)1
指導費	1,220,000	1,157,854	62,146	
支部関係費	12,000,000	11,988,560	11,440	
海外諸関係費	300,000	293,940	6,060	
山岳研究所運営費	4,040,000	4,049,030	△ 9,030	
海外登山補助費	1,000,000	1,000,000	0	
その他事業費	5,000,000	8,397,449	△ 3,397,449	(注)2
印刷・製本費	1,000,000	1,209,887	△ 209,887	
通信運搬費	5,000,000	5,247,667	△ 247,667	
事業費計	44,925,000	48,969,781	△ 4,044,781	
2.運営管理費				
給料・手当	12,000,000	12,035,400	△ 35,400	
文具・消耗品費	250,000	259,602	△ 9,602	
印刷・製本費	3,000,000	2,704,126	295,874	
旅費・交通費	1,500,000	1,198,370	301,630	
通信・運搬費	2,000,000	1,602,916	397,084	
保険料	300,000	299,310	690	

2．基本財産の増減額及びその残高は、次のとおりである。

科目	前期末残高	当期増加	当期減少	当期残高
貸付信託（三井信託銀行）	2,380,000	0	0	2,380,000
〃（日本信託銀行）	420,000	0	0	420,000
〃（中央信託銀行）	5,200,000	0	0	5,200,000
合計（基本金）	8,000,000	0	0	8,000,000

3．次期繰越収支差額の内容は、次のとおりである。

科目	前期末残高	当期末残高	備考
現金預金	11,759,164	13,967,351	
未収会費	3,824,000	4,068,000	
合計	15,583,164	18,035,351	
前受会費	265,000	184,000	
預り金	215,410	190,240	
合計	480,410	374,240	
次期繰越収支差額	15,102,754	17,661,111	

4．固定資産の取得価格、減価償却累計額及び当期末残高は、次のとおりである。

科目	取得価格	減価償却累計額	当期末残高
建物	144,423,000	0	144,423,000
什器備品	9,594,982	0	9,594,982
合計	154,017,982	0	154,017,982

財産目録

平成12年3月31日

科目	金額		
[1] 資産の部			
1．流動資産			
現金預金			
現金　現金手許有高	196,926		
振替貯金			
東京地方貯金局	1,332,037		
普通預金			
あさひ銀行市ヶ谷支店	10,063,243		
三菱銀行市ヶ谷支店	2,122,717		
中央信託銀行本店	162,282		
三井信託銀行新宿西口支店	68,994		
日本信託銀行本店	21,152		
定期預金			
あさひ銀行市ヶ谷支店	0		
未収会費　339名分	4,068,000		
棚卸資産　注1）	1,418,919		
流動資産合計		19,454,270	
2．固定資産			
(1)基本財産			
貸付信託			
三井信託銀行本店	2,380,000		
日本信託銀行本店	420,000		
中央信託銀行本店	5,200,000		
基本財産合計	8,000,000		
(2)その他固定資産　注2）			
土地　57.91484㎡	46,297,170		
建物　432.63㎡	144,423,000		
什器・備品	9,594,982		
敷金	300,000		

貸借対照表

平成12年3月31日現在

科目	金額		
[1] 資産の部			
1．流動資産			
現金	196,926		
振替貯金	1,332,037		
普通預金	12,438,388		
定期預金	0		
未収会費	4,068,000		
棚卸資産	1,418,919		
流動資産合計		19,454,270	
2．固定資産			
基本財産			
貸付信託	8,000,000		
基本財産合計	8,000,000		
その他固定資産			
土地	46,297,170		
建物	144,423,000		
什器備品	9,594,982		
敷金	300,000		
秩父宮家ご遺贈金	12,000,000		
図書出版研究基金	5,043,305		
長期計画積立金	45,550,000		
海外登山基金	93,500,000		
終身会費積立金	15,860,000		
退職給与引当預金	4,691,620		
その他固定資産合計	377,260,077		
固定資産合計		385,260,077	
資産合計			404,714,347
[2] 負債の部			
1．流動負債			
前受会費	184,000		
預り金	190,240		
流動負債合計		374,240	
2．固定負債			
退職給与引当金	4,691,620		
固定負債合計		4,691,620	
負債合計			5,065,860
[3] 正味財産の部			
正味財産			399,648,487
（うち基本金）			(8,000,000)
(当期正味財産増加額)			(8,649,866)
負債及び正味財産合計			404,714,347

計算書類に対する注記

1．重要な会計方針

(1) 有価証券の評価基準及び評価方法について
基本財産の貸付信託は、総平均法による原価基準を採用している。

(2) 固定資産の減価償却について
建物及び什器備品の減価償却は行っていない。

(3) 引当金の計上基準について
退職給与引当金は期末退職給与の要支給額の235％に相当する額を計上している。

(4) 資金の範囲について
資金の範囲には、現金預金、未収会費、前受会費及び預り金を含めている。なお、前期末及び当期末残高は、下記3に記載のとおりである。

フィルム収納キャビネット（スチール製）	56. 8. 8	254,000	事務所
図書カード容器（木製３段）	56. 9. 12	200,000	図書室
書棚（木製２段）	56. 12. 22	500,000	〃
16mm　映写機16-CL（MO）	61. 5. 13	156,000	事務所
木製書架ガラス戸付（２台）	62. 9. 24	700,000	図書室
シャープ液晶ビジョン一式	2. 7. 19	587,932	事務所
世界対応　ＶＴＲ001 NWV	4. 5. 11	250,000	〃
小型気象ファクシミリ　JAX-9	4. 10. 19	320,000	〃
ナショナル冷凍冷蔵庫 NR-041VP2-H	5. 3. 20	250,000	山研
ナショナル29インチテレビ TH-29VS35	5. 3. 20	280,000	〃
ナショナルＢＳ付ビデオ HV-BS50S	5. 3. 20	250,000	〃
ミニ水力発電装置	11. 11. 30	3,816,750	〃
合　　計		9,594,982	

財産目録記載外のその他物品リスト（主として受贈品）

1．絵画

題　　名	種類・号数	作者名	掲載、保管場所
白　馬　岳	油Ａ－50	中村清太郎	大町山岳博物館
富　士　山　麓	油Ａ－25	茨木猪之吉	河口湖町立美術館
田代池の白樺	油変形６	中村清太郎	本　会
群　猿	墨　絵	石井鶴三	本　会
針の木峠より	油－10	茨木猪之吉	本　会
伊　豆　半　島	油－10	茨木猪之吉	松本アルプス山岳館
徳本峠から穂高連峰	墨　絵	石田吟松	松本アルプス山岳館
初冬の両神山	油－10	茨木猪之吉	本　会
鳥（カットの原画）	墨　絵	石井鶴三	本　会
メールドグラス	エッチング		本　会
モンブラン	エッチング		松本アルプス山岳館
カンチェンジュンガ	エッチング	シュラー・ギントワイト	本　会
ユングフラウ	油	山里寿男	伯耆国山岳美術館
涸沢より北穂高	水彩－６	山里寿男	松本アルプス山岳館
槍ヶ岳初夏	油－10	中村清太郎	本　会
カンチェンジュンガ	パステル	矢崎千代二	本　会
北穂高滝谷	油－25	足立源一郎	本　会
或朝の槍ヶ岳	油－25	足立源一郎	伯耆国山岳美術館
北穂高主峰	油－25	足立源一郎	本　会
槍　ヶ　岳	油－Ｐ８	足立源一郎	本　会
タンボチェの僧院	水彩－４	清野恒	松本アルプス山岳館
シェルパニの親子	水彩－４	清野恒	松本アルプス山岳館
冬の山（清太山）	墨　絵	近藤茂吉	松本アルプス山岳館
梓　川　秋　色	油－12	後藤三男	本　会
早朝の上高地山研	版画－８	松田敏男	上高地山岳研究所
旧上高地山岳研究所	水彩－10	松田敏男	上高地山岳研究所
焼　岳　秋　趣	版画－８	鈴木正俊	伯耆国山岳美術館
ナムチャバルワ峰暮色	油－10	神原忠夫	伯耆国山岳美術館
白　馬　雪　田	日本画	丸山晩霞	本　会
上　高　地　秋　景	油－Ｆ20	後藤三男	上高地山岳研究所
マチャプチャレ	油－20	武井清	本　会
朝　霧	水彩－８	越智英夫	本　会
白樺の林	油－６	茨木猪之吉	本　会
麓　春	油－Ｐ50	倉員辰雄	本　会
ヒマラヤダージリンにて	油－Ｆ４	上野春香	伯耆国山岳美術館

＊他の絵画、写真　省略

秩父宮記念賞基金（定期預金・あさひ市ヶ谷）	12,000,000		
図書出版研究基金（定期預金・あさひ市ヶ谷）	5,043,305		
長期計画積立金（定期預金・三菱市ヶ谷）	45,550,000		
海外登山基金（定期預金・あさひ市ヶ谷）	93,500,000		
終身会費積立金（定期預金・あさひ市ヶ谷）	15,860,000		
退職給与引当預金（定期預金・あさひ市ヶ谷）	4,691,620		
その他固定資産合計	377,260,077		
固定資産合計		385,260,077	
資産合計			404,714,347
［２］負債の部			
１．流　動　負　債			
前受会費　（平成９年度会費15名分）	184,000		
預り金　職員に対する源泉所得税その他	190,240		
流動負債合計		374,240	
２．固　定　負　債			
退職給与引当金	4,691,620		
固定負債合計		4,691,620	
負債合計			5,065,860
正　味　財　産			399,648,487

注1）棚卸資産内訳

種　　類	摘　　要	金　額
刊　行　物	山岳総索引、山岳覆刻版等	621,950
服飾品・その他	クラブタイ、タイ止等	796,969
合　　計		1,418,919

注2）その他固定資産内訳

１建物及び土地

Ａ　事務所及び図書室	
場所　東京都千代田区四番町５番４ 構造　鉄筋コンクリート造、陸屋根、地下１階付５階建 （事務所）区分所有建物１階部分　103.32㎡ 宅地持分　1,124.56㎡×339/10,000 ＝38.122584㎡ （図書室）区分所有建物１階部分　55.22㎡ 宅地持分　1,124.56㎡×176/10,000 ＝19.792256㎡	
計　158.54㎡　宅地持分　57.91484㎡	￥72,720,170
Ｂ　上高地山岳研究所	
場所　長野県南安曇郡安曇村4469番地１ 構造　鉄筋コンクリート造（一部木造）１棟 274.09㎡	￥118,000,000
合　　計	￥190,720,170

２什器備品

品　　名	取得年月日	取得価格	所　在
書庫内移動書架一式コンパックル	53. 2. 10	1,500,000	図書室
閲覧用テーブル（木製２台）	53. 9. 28	250,000	〃
ライティングビューロー（木製）	54. 6. 23	280,300	事務所

6月　第7回古道を歩く（図書）
6月　海外連絡委員会講演会（海外）　本会
6月　白神山地体験造林作業（自然保護）　白神山地
6月　谷川岳山行（青年部）　谷川
6月　岩登り研修・コンペ（学生部）　小川山
6月～7月末　山のスケッチ展（山研）　上高地山研
7月1～2日　岩登り研修会（指導）神奈川県立スポーツセンター
7月1～2日　探索山行「大分水嶺を歩きながら高山植物を訪ねる」（科学）　湯の丸
7月中旬　全国山岳遭難対策協議会（遭難対策）
7月中旬　ＯＢ懇談会（青年部）　本会
7月　講演学習会「夏の天気図の読み方」（科学）　本会
8月　アルバータ2000プロジェクト・トレッキング（海外）　カナダ
8月1日～末　特別展（山研）　上高地山研
8月中旬　自然観察山行（自然保護）　苗場山
9月２日　ビールパーティー　本会
9月９日　名誉会員を囲む会（総務）　本会
9月９～10日　岩登り講習会（指導）
9月16～17日　全国支部懇談会（東九州支部）　別府
9月23～24日　プチ・オータムコンサート（山研）上高地山研
9月30日　新入会員オリエンテーション（総務）　本会
9月　日中友好登山20周年記念事業
9月　第10回山を語る（図書）　本会
9月　自然観察山行（自然保護）　福井
9月　山野井泰史夫妻講演会（青年部）　本会
9月～10月 山の写真展「心に映える山々」（山研）　上高地山研
9月～10月 委員会主催撮影講習会（フイルムビデオ）　上高地
10月14～15日　自然保護全国集会（自然保護）　福井
10月14～15日　山研ミニ水力発電見学ツアー（科学・山研）　上高地山研
10月20日 医療委員会講演会（医療）　本会
10月21～22日　きのこ山行（集会）
10月28日 全国山岳博物館連絡会議（資料）　本会
10月中旬　海外登山報告会（青年部）
10月下旬　ロッククライミング講習会（青年部・指導・学生部）　文登研
10月　大学山岳部監督会議（学生部）
11月25日　シンポジュウム「登山者から見た山のし尿処理」（科学・自然保護）　本会
11月　第32回山岳図書を語る夕べ（図書）　本会
11月　講演と対談「高所登山21世紀への展望」（高所）　本会
11月　海外連絡委員会講演会（海外）　本会
11月　研究会「海外登山」（青年部）　本会
11月　マラソン大会（学生部）　皇居外苑
11月下旬　文部省登山研修所友の会シンポジウム参加（遭難対策）　文登研
12月２日　支部長会議（総務）　新高輪プリンスホテル
12月２日　年次晩餐会（総務）　新高輪プリンスホテル
12月２日　西暦2000年記念「山岳写真展」新高輪プリンスホテル
12月３日　年次晩餐会記念山行（集会）　東京近郊
12月10日　初心者のための撮影会（フイルムビデオ）　関東周辺
12月　海外登山報告（青年部）　本会
12月　冬山登山研究会（学生部）　本会
1月6～8日　スキー懇親会（集会）　蔵王又は妙高
1月27～28日　総務委員会セミナー（総務）　戸倉
1月　登山医学研究会（医療）　本会
1月　青年部ＯＢ・現役懇親会（青年部）　本会
2月3～6日 アイスクライミング研修会（指導・青年部・学生部）　八ヶ岳
2月24～25日　全国支部事務局担当者会議（総務）　東京グリーンホテル
2月　第29回山岳史懇談会（図書）　本会
2月　高所登山研究委員会編集冊子作成（高所）　本会
3月中旬　自然保護シンポジュウム「森づくり」（自然保護）

2．図書

種　類	摘　　要	冊　数
和　書	平成11年度受入冊数　265冊	10195冊
洋　書	平成11年度受入冊数　50冊	3535冊

3．フィルム・ビデオ

フィルム	15点　「マナスルに立つ」他
ビデオ	224本

社団法人日本山岳会　平成11年度の収支計算書、正味財産増減計算書、貸借対照表、及び財産目録を監査し、正確妥当なことを認めます。

平成12年４月11日

社団法人　日本山岳会　監事　神崎忠男
監事　中村　保

監事監査報告

平成12年４月11日に行った平成11年度（平成11年4月１日～平成12年３月31日）に於ける会計の監査ならびに期中の業務監査の結果を次の通り報告する。

記

会計監査について、帳簿ならびに関係書類の閲覧等、必要と思われる手続きを用いて計算書類の正確性を検討した。

業務監査については、理事会等に出席し、業務執行の妥当性を検討した。

監査意見は次の通り。

1 現金については、監査日当日現在の残高と、帳簿の金額は一致し、正しく出納されているものと認める。
2 収支計算書、正味財産増減計算書、貸借対照表、財産目録は、本会の収支状況及び財政状態を正しく示しているものと認める。
3 特定預金のうち、図書出版研究基金については、長い間活用されておらず、その見直しを検討してほしい。
4 事業報告の内容は、真実であると認める。
5 理事の職務執行に関する不正の行為または法令、定款に違反する重大な事実はないと認める。　以　上

社団法人日本山岳会　平成12年度事業計画

2000年4月1日～2001年3月31日

1．登山の指導と奨励に必要な集会、研修会、講演会、展覧会、及びシンポジウムの開催

4月1日　11年度後期新入会員オリエンテーション（総務）本会
4月中旬　自然観察山行（自然保護）　日光
4月　学生部総会（学生）　本会
5月7日～7月9日　上高地山研資料室企画展（資料）上高地山研
5月13日　第2回「新日本山岳志」編集会議　本会
5月15日　山研ミニ水力発電完工式及び運転（ミニ水力発電）　上高地山研
5月20日　支部長会議（総務）　東京グリーンホテル
5月20日　通常総会（総務）　東京グリーンホテル
5月27～28日　若葉会山行（集会）　下北半島
5月　海外登山研究会（学生部）
6月3～4日　第20回日本登山医学シンポジウム（医療）　本会
6月3～4日　徳本峠越え（山研）　上高地
6月４日　ウェストン祭（信濃支部）　上高地
6月19日　委員会・同好会連絡会議（総務）　本会

7.雑収入				
受取利息	200,000	700,000	-500,000	
雑収入	800,000	500,000	300,000	
雑収入計	1,000,000	1,200,000	-200,000	
8.特定預金取崩収入	0	0	0	
当期収入合計（A）	82,610,000	83,350,000	-740,000	
前期繰越収支差額	17,661,111	15,102,754		
収入合計（B）	100,271,111	98,452,754		

科目	平成12年度予算額	前年度予算額	増減	備考
Ⅱ．支出の部				
1.事業費				
出版事業費	11,300,000	11,800,000	-500,000	
図書管理事業費	600,000	600,000	0	
調査研究事業費	2,734,000	2,965,000	-231,000	
指導研修費	1,270,000	1,220,000	50,000	
支部事業費	12,200,000	12,000,000	200,000	
海外連絡関係費	400,000	300,000	100,000	
海外登山補助費	1,500,000	1,000,000	500,000	
山研事業費	4,040,000	4,040,000	0	
その他事業費	9,000,000	5,000,000	4,000,000	
通信運搬費	5,300,000	5,000,000	300,000	
印刷製本費	700,000	1,000,000	-300,000	
事業費計	49,044,000	44,925,000	4,119,000	
2.運営管理費				
給料手当	12,400,000	12,000,000	400,000	
文具消耗品費	350,000	250,000	100,000	
印刷製本費	1,800,000	3,000,000	-1,200,000	
旅費交通費	1,700,000	1,500,000	200,000	
通信運搬費	1,800,000	2,000,000	-200,000	
火災保険料	300,000	300,000	0	
営繕費	400,000	300,000	100,000	
租税公課	500,000	550,000	-50,000	
光熱水道費	600,000	700,000	-100,000	
電話料	450,000	400,000	50,000	
会議費	300,000	350,000	-50,000	
什器備品費	300,000	300,000	0	
振替手数料	700,000	650,000	50,000	
福利厚生費	250,000	280,000	-30,000	
事務所管理費	1,000,000	1,000,000	0	
その他管理費	3,000,000	3,800,000	-800,000	
負担金	150,000	150,000	0	
賃借料	3,240,000	3,240,000	0	
雑費	1,000,000	1,000,000	0	
管理費計	30,240,000	31,770,000	-1,530,000	
3.固定資産取得支出				
什器備品購入支出	0	0	0	
固定資産取得支出	0	0	0	
4.特定預金支出				
長期計画積立金支出	5,000,000	4,000,000	1,000,000	
秩父宮記念賞基金支出	1,000,000	0	1,000,000	
退職給与引当預金支出	0	1,000,000	-1,000,000	
特定預金支出	6,000,000	5,000,000	1,000,000	
予備費				
5.予備費	1,500,000	1,500,000	0	
当期支出合計（C）	86,784,000	83,195,000	3,589,000	
当期収支差額(A)-(C)	-4,174,000	155,000		
次期繰越収支差額(B)-(C)	13,487,111	15,257,754		

3月　山岳スキー研修会（指導）　椈池周辺
3月31日　新入会員オリエンテーション（総務）　本会

2．登山施設の運用、その他登山のための適切な事業
＊上高地山岳研究所の運用
＊受入れ資料保管
＊各博物館、美術館との提携強化
＊海外遠征の記録、会合、行事等の記録、フイルムのビデオテープ化による保存

3．山岳遭難の予防とその対策に関する企画及び指導
＊6月20日　事例に学ぶ近郊山域遭難対策（集会・遭難対策）
＊9月19日　救急法講習会「山でいざという時に」（集会・遭難対策）
＊11月7日　テーピング講習会（集会）
＊2月中旬　雪崩ビーコン講習会（指導・学生部・遭難対策）
＊山岳遭難データベースホームページの開設（遭難対策）

4．自然保護活動の推進
＊自然保護委員会による自然保護指導者養成のための「山の自然学講座」
＊自然保護委員会会報「木の目草の芽」隔月刊行
＊ネパール・シバプリにおけるラリグラス（しゃくなげ）植林

5．機関紙等の発行
＊山岳95（2000）号の発行
＊会報659号～671号の発行
＊インターネット・ホームページの更新

6．国内及び外国山岳団体との情報交換
＊国内関係団体（日本山岳協会・東京都山岳連盟・日本ネパール協会・日本ヒマラヤ協会・ＨＡＴ－Ｊその他）との連絡
＊海外登山団体との機関紙の交換及び情報誌の購入
＊8月　アメリカ山岳会訪問（海外）

7．海外登山等
＊6月　マッキンリー気象観測機器設置登山隊（最終）
＊8月　カナディアンロッキー・アルバータ峰登山

8．その他目的を達成するために必要な事業
＊山岳図書の整備
＊山研ミニ水力発電装置本格稼動（ミニ水力発電実行委員会）
＊海外登山基金による助成
＊その他

平成12年度収支予算

平成12年4月1日から平成13年3月31日まで

科目	平成12年度予算額	前年度予算額	増減	備考
Ⅰ．収入の部				
1.基本財産運用収入				
基本財産利息収入	40,000	80,000	-40,000	
2.入会金収入				
入会金	4,800,000	5,000,000	-200,000	
3.会費収入				
通常会費	67,000,000	66,000,000	1,000,000	
4.事業収入				
広告料収入	1,800,000	3,000,000	-1,200,000	
印税収入	20,000	20,000	0	
刊行物売上収入	250,000	200,000	50,000	
山研使用料収入	3,500,000	3,550,000	-50,000	
その他事業収入	4,200,000	4,300,000	-100,000	
事業収入計	9,770,000	11,070,000	-1,300,000	
5.補助金等収入				
補助金収入	0	0	0	
6.寄付金収入				
寄付金収入	0	0	0	

報告

REPORT 7月

日本山岳会の各委員会
同好会の活動報告です。

ミニ水力発電実行委員会――

上高地山岳研究所の「ミニ水力発電装置」完工

会報『山』（六四七、六五七号）で既報のとおり、昨年から工事が進められていた山研「ミニ水力発電」装置が完工し、五月十五日、新緑萌える上高地山研で完工式と披露パーティーが行われた。

ミニ水力発電実験棟の前で挨拶する小倉副会長

前日来の雨もやみ、薄日が差す山研裏の発電小屋前に、地元安曇村の有馬佳明村長をはじめ、広野孝男環境庁中部地区自然保護事務所長、高橋秀通中信森林管理署長、上高地観光旅館組合の方々、日本電池㈱及び林エンジニアリング㈱などの工事関係者、山浦本会信濃支部長、赤羽、中野両地元山研運営委員のほか多数の会員が列席する中、小倉副会長の挨拶で完工式が始まった。実行委員の森常務理事（科学研究委員会担当）の設備概要説明に続き、上高地における自然エネルギー活用の先駆的役割を期待するとの来賓の方々のお祝いの言葉をいただいた。

この後直ちに、完工式最大のイベントである発電装置の運転開始セレモニーとなった。小倉副会長と来賓の方々が順に送水管の流量調整ハンドルをゆっくり回すと、タービンのノズルから勢いよく水が噴出してタービンが回りだした。次第に回転数を増してゆくとデモンストレーション用の十五個の電球が点灯、善六沢の流れが電気になった瞬間に、参会者の中から驚きの声があがり、完工式も最高潮に達した。構想より八年、自然公園法の厳しい規制の下にある上高地の特殊性から、行政的手続きが困難を極めたが、勢いよく回転するタービンの音に、やっと完工したという実感が湧き出した瞬間でもあった。

完工式後は、場所を山研食堂に移して披露パーティーとなった。村木潤次郎元会長の音頭で乾杯の後、坂本理事（山研運営委員会担当）をはじめとする山研運営委員会女性陣心づくしの手料理が続々と運ばれ、和やかな宴が続いた。圧巻はなんといっても坂本料理長のマグロの「にぎり鮨」。上高地で「にぎり」とはと大好評を博した。

ご協力をいただいた環境庁、森林管理署、建設省、長野県、安曇村、趣旨にご理解を賜り資金的支援をいただいた東京電力㈱、中部電力㈱、日本原子力発電㈱、そして日本電池㈱をはじめとする工事関係者にお礼申し上げたい。

本年四月、国会においても「自然エネルギー促進議員連盟」（顧問・橋本龍太郎会員、副会長・堂本暁子会員）が結成され、自然エネルギーに対する関心が高まっている。

今後は、神奈川工科大学との共同で実験を継続し、山岳地域における自然エネルギーの実証的かつ先駆的活用としての、山研ミニ水力発電の有用性に関するデータの集積を期待したい。

一方、発電装置の維持管理も重要である。山研の木村管理人夫妻に負担がかかることも予想されるため、会員諸氏の絶大なバックアップをお願いしたい。

（吉永英明）

科学委員会・学生部指導委員会――

マッキンリー気象観測登山隊――十年間の登山を振り返る――

科学委員会と学生部指導委員会では「マッキンリー気象観測登山隊報告――十年間の登山を振り返る」と題して、三月十六日、ルームに大蔵喜福氏を迎えて講演会を行った。出席者は二十五名であった。

「気象観測の動機となったのは、厳冬期ヒマラヤ登山の成否を左右する〝風〟がどのようなものであるか、実測研究することにより、気象遭難防止に役立つと結論したからである。観測機器の設置および回収を考える

時、毎年登頂可能な、そして厳冬期に友人を失ったマッキンリーが観測対象に最適と判断し決定した。

初年度一九九〇年、デナリパス五七一〇メートルの岩峰上に観測機器を無事設置することができたが、一九九一年、第二次隊が記録回収に現場に到達した時は、センサーの支柱が倒壊しており、がっかりした。しかし帰国後、多くの記録装置は立派に作動していたことが判り意を強くした。

その後も資金集めに苦労はあったが、皆さんの応援と意欲が勝ったといえよう。

第三次以降は、機器メーカーや多くの人の協力を得ながら、年次ごとに機器類は改良された。また学生部、青年部も雪山訓練をかねてバックアップし、記録回収および機器設置後には、マッキンリーの全員登頂にも成功している。

ちなみに現在判明している最低外気温度はマイナス五九・四度C、最大風速は八二・五／秒である」

この他、アラスカ国立公園の環境行政の現状など、スライドを交えた一時間半に及ぶ楽しいお話をいただいた。

観測は本年で予定の十年目となり、この六月記録の回収のみとなったが、観測装置はアラスカ州立大学に寄贈され、観測は引き継がれることとなった。ハワイや南米高地の観測所とともに、地球規模の高層気象観測の拠点となり、地球温暖化現象調査その他にも使用されることが約束されている。

このプロジェクトに関わった皆さんには、十年間本当にご苦労さまでした。この結果は現在分析中であるが、必ずや登山界のみならず世界的に見ても貴重な資料となることであろう。そして今まで続けてきた六月のこの行事が、学生の雪山訓練の場としていつまでも続くことを祈る。

（石田要久）

自然保護委員会

高尾山森づくり体験記

昨年度より懸案の「日本山岳会の森」づくりの第一歩として六月四日、高尾山で体験林業を行った。

危ぶまれていた天候もわれわれの意気込みに押されたのか、当日は朝から快晴の作業日和。総勢十七名は九時に高尾森林センターに集合した。今回はセンターの方々の指導のもとに高尾山国有林の小下沢地区で十七年生の檜の林の間伐を行うのである。数台の車に便乗して林道を進んだのち、約三十分の登りで尾根に取りつくと、今日の間伐現場も間近だ。尾根を中心にして両側に檜が林立している。

全員がヘルメットを着用し、ナタ、ノコギリを腰につけると、いよいよ気持ちが引き締まる思いである。

指導員の説明を聞き、二組に分かれて林の中に入り、実際に木を見ながら選木の仕方を教わり、早速作業に取りかかる。地下足袋の底から伝わる土の感触が快い。曲がった木、蔦に絡まれて変形した木などを見てノコギリを入れる。

倒す側に受け口を入れ、反対側から伐りはじめる。あちこちからノコを引く音が響き、やがて「倒れます」の声がかかると近くの人は注目する。この辺は木が高くなりすぎていて間伐の時期が遅れていたように思う。他の木に引っかかるとロープで引っ張って倒す。小枝を払い、丸太切りにする作業が意外に大変だ。やっと慣れた頃昼食となる。奥多摩の山々や遥か眼下に高尾の町を見ながらの食事は特においしい。コアジサイが可愛い花を私たちに見せてくれる。心地よい風を受けながら至福のひとときをすごす。

午後の作業は皆慣れて、黙々と手を動かしている。佳境に入る頃になると「そろそろ終わりにしましょう」とつれない声がかかった。ふと見上げると、森の中は大分明るくなっていた。これからは下草も徐々に生え

高尾山の森で檜の間伐を行った！

チャーターで便行く《毎年好評です》
ネパール・ヒマラヤトレッキング9日間
ハーレクインエア 10/30 ●11/5 発
ジャルウェイズ 11/3 ● 11/10 ● 11/17発
■エベレスト街道、ゴラパニ、ランタンなど、詳細資料ご請求下さい。
運輸大臣登録一般旅行業490号／日本旅行業協会正会員
アルパインツアーサービス株式会社
〒105-0003 港区西新橋1-12-1（西新橋1森ビル） TEL.03-3503-1911
大阪☎06（6444）3033　名古屋☎052（581）3211　福岡☎092（715）1557

今年もさんけんで会いましょう

てよい森になっていくだろう。

後片付けをして、後ろ髪を引かれる思いで山を下る。

閉会の際の所長挨拶で「さすがは日本山岳会の皆さんです。最初から丸太伐り、材の始末まできちんとしてもらって大満足です。大いに信頼申し上げます。今後もよろしくお願いします」と過大のお褒めの言葉をいただき、われわれもすっかり気をよくし、心地よい疲れとさわやかな気分で帰路に着いた。

次回はセンターの都合で十月二十八日(土)に決まったが、私個人としてはもっと早く森に行って作業したいと密かに思っている。

自然保護委員会としては九月二日に高尾山で自然観察山行を行います。こちらもご一緒しませんか。

（川越尚子）

医療委員会

第二十回日本登山医学シンポジウム開催

六月三日(土)と四日(日)の両日、慈恵医科大学高木南講堂にて、第二十回日本登山医学シンポジウムが開催された。会長は本会会員で東京慈恵会医科大学山の会の浜口欣一氏。記念講演として小嶋尚氏（明治大学）「山の姿かたちを読む」、教育講演として、山本正嘉氏（鹿屋体育大学）「体力トレーニング効果」、馬詰良樹氏（東京慈恵会医科大学）「運動生理学から見た筋肉疲労」が行われた。山森欣一氏(日本ヒマラヤ協会)は「ヒマラヤ登山の実体と予防対策」と題して特別講演を行った。

シンポジウムでは、旅のドクターとして高名な荻原理江氏が構成する「トレッキングの医学」が現場のツアーリーダーの参加も得て注目を浴びた。浜口欣一氏の会長講演では高所トレッキングで話題を呼んでいる「ダイアモックスの功罪」が取り上げられホットな論議を呼んだ。日本でも高所障害に対する標準的対処法の勧告が必要な時期にきていると思われる。

今回目玉となったライブ、槍ヶ岳診療所、常念診療所、信州大学病院救急部、そして会場の慈恵大学高木南講堂を衛星回線で結ぶ、遠隔医療診断システムの実演は、きれいな槍の映像も楽しめて技術的には成功といえよう。

日本登山医学研究会が新しく編んだ『登山の医学』が当日発売された。日本の山、海外のトレッキングで起こりうる疾患とその対策を網羅した小冊子である。日本語で書かれた手ごろなものがなかっただけに、待望の書として歓迎される。（増山　茂）

海外連絡委員会

日カ合同アルバータ登山隊に記者が同行

五月十七日、アルバータ二〇〇〇実行委員会が開かれた。八月の日本・カナダ合同アルバータ峰登山に、サンケイ新聞社から記者一名、カメラマン一名がBCまで同行することが確認された。六月二十八日、カナダ大使館にてカナダ大使主催の登山隊激励会が行われることが決定した。

（増山　茂）

アルパイン・フォトビデオクラブ

平成十二年総会を終えて

フォトビデオクラブは創立以来八年目、会員も現在七十名を超え、創作活動も年毎に盛んになりました。

五月十二日、JACルームで年次総会を開催。組織の活性化を図るため新たに副代表を設け、川嶋新太郎会員を選出、運営委員も更新して、新年度に向けてスタートしました。

クラブの主行事・写真展は、昨年十一月末に開催した東京・西新宿三省堂文化会館会場を皮切りに、年次晩餐会、年が明け一月には伯耆国山岳美術館、四月上旬に麹町フォトギャラリー、五月下旬には上野松阪屋の夏山相談所で展示、夏期には上高地山岳研究所で開く予定です。

月例会では、会員相互の情報交換、またスライド上映による勉強会を行い、作品づくりの糧としています。

今年の年次晩餐会では、全国支部に呼びかけた写真展が開催されます。秀作が一堂に展示されると思われますが、会員も期待されるような作品づくりで頑張ってゆくつもりです。

（代表・羽田栄治）

山げらの会

六日町周辺のクロカンスキーツアー

四月七日～九日の二泊三日、六日町温泉国際ユースホステルの内山所長のご尽力と地元の方々のご協力を得て、総勢二十一名、早春の越後の山並みを眺めつつ、スキーツアーを楽しむことができた。

今回は六日町温泉国際ユースホステルを基地に行われ、私たち夫婦は

名古屋から七日夜に参加した。

翌八日、ユースホステル前庭で足慣らしの後、巻機山麓の清水地区から桜坂へ登る。割引沢の奥に屹立する天狗岩は壮観であった。

九日は魚沼スカイラインを栃窪峠～十日町展望台～上越国際スキー場大沢ゲレンデまで往復。春の陽に、白銀に映える八海山、中ノ岳、巻機山、前山の金城山などの眺望を堪能した。

山げらの会の公募に初参加した私どもは、勝手の違う歩くスキーに翻弄されつつも、野鳥の囀り、マンサクの花などを愛でつつ、歩き滑ってクロスカントリースキーの醍醐味の一端を体験することができた。大変楽しいツアーだった。ありがとうございました。

（妹尾幸雄・律子）

「日中友好登山」計画について

学生部指導委員会

会報「山」五月号（六六〇号）でお知らせした二〇〇〇年秋の「日中学生友好登山」計画は、中国側の準備が整わないため延期することになりました。

中国登山協会・曽曙生主席より、今回の計画については適当な時期に延期するが、今後も日中学生の登山交流を続けてゆきたい、との丁重な書簡をいただきました。

92同期会・第十回山行――新緑の丹沢へ

年度別同期会の活躍ぶりが機関誌「山」の紙面を賑わすようになって久しくなります。その先駆けとなったと自負している92同期の面々十二名は、五月十四日、記念すべき第十回山行を丹沢で実施。新緑一色の山路を全員で踏みしめ、春真っ盛りの山塊を存分に味わってきました。

92同期会のメンバーにこだわらない、という方針を数年前に打ち出し、以来さまざまな方がオブザーバーとして催し物に参加しました。今回も97同期会のメンバー二名が加わわり、会を大いに盛り上げてくれたことに感謝しています。

冬眠あけで足腰が十分鍛えられていない、という少数派の意見？を尊重し、今回はヤビツ峠から二の塔、三の塔を経て大倉に下るという、足に負担のかからない一般コースを選択しました。予想に反し、全コースを通じて登山道を行き来する人にはわずかしか巡り合わず、その分マイペースで路傍の石、岩間に咲く山野草を心行くまで観賞することができました。

今まであまり気にとめていませんでしたが、目を凝らすと登山道周辺にはアケビが大変多いことに気づき驚きました。紫色の小花を藤の花そっくりに順に下を向いて咲いているのが観察され、ホウノキが白く大きな花弁を草鞋のような葉の先から天に向かって勢いよく開いているのにも、山あいのそこかしこで目にすることができました。混雑した日などには、足を止めて仰ぎ見ることなどとても許されないことでしょうが、私たちの場合は大変恵まれていたといえるかもしれません。

折から標高一〇〇〇メートル付近では桜が見頃であったのも、今回の山行を有意義なものにすることの一つになったように思われます。下旬になると、何事もなかったようにその白い花弁を撒き散らし、花で覆われていた枝々は青葉で埋め尽くされ、そこに大島桜の巨木があったことなど誰一人思わず、振り返ることもせずに歩き過ぎていってしまうことでしょう。

なお、少々意地汚い話で恐縮ですが、某先輩手作りの山椒の漬け物はいつものことながら二重丸の逸品で、これが目当てで山行を心待ちにする人も少なくないことも。人柄の場合がそうですが、えもいわれぬ味や香りには人を惹きつける何かがあるものですね。

（召田俊雄）

資料委員会――寄贈品二点のご紹介

金光義朗会員（四五八四）よりF六号の油絵「ケルン」をご寄贈いただきました。現在、上高地山研の食堂に展示してあります。

中林秀介会員（一三一三二）より中川八郎作「日本アルプス」という作品を印刷した古い絵葉書のご寄贈がありました。

貴重な資料として大切に保管させていただきます。

北アルプス白馬連峰
ゆっくりとした登山をお楽しみください。

素泊り、山行中の継続駐車もできます。もより駅、登山口等、送迎いたします。

和牛料理の宿
ひまわり
長野県北安曇郡白馬村神城22114-17
TEL（0261）75－2292㈹
FAX（0261）75－3284

海外の山

リン・ヒルの20世紀

写真・文　江本嘉伸

リン・ヒル。
軽やかに人口壁を登ってみせた。

二十世紀の代表的なクライマーは誰か、と聞かれたら、どう答えるだろうか。ラインホルト・メスナーをあげるだろうか、あるいはガストン・レビュファだろうか、それとも歴史的意味を取って、ジョージ・マロリー、ヘルマン・ブールを思うだろうか。

複数あげていいとしたらクライミングの世界を長い時間リードし続けた女性として、リン・ヒルは欠かせないだろう。四月末のことだが、そのヒルがスポーツ用品店の開店イベントで十年ぶりに来日した。人工壁を難なく登ってみせ、降り立ったところを立ち話させてもらった。

一メートル五一センチと小柄。深い、青い目が印象的な人である。間もなく四十歳になるはずだが、一段と哲学的な風貌を強めている印象を持った。

ヒルは、九三年にあらゆるクライミング・コンペから退いている。以後ベトナム、モロッコ、マダガスカル、ヨーロッパ各国、オーストラリアなど世界各地を旅しながら、自然の中でクライミングを続けてきた。

「十年間人々の暮らしについて学んだ。いろいろな文化があり、世界を知ったことは素晴らしかった。冒険そのもののクライミングも体験したし」

コンペというのは、人工のものでロッククライミングとは自分は呼ばない。外の岩を登りたかったのでコンペには出ないことになった、とヒルは言う。コンペに出ている選手たちはもっぱら人工の岩場で技を競うためのトレーニングしていて、外のクライミングにはほとんど行かないものだ、とも。

「私の知っている範囲でコンペとクライミングを両立させているのは、平山ユージだけではないかしら。彼はほんとにオールラウンドなクライマーです。エルキャピタンのサラテ・ルートをほとんどオンサイト（下見、試登なしにいきなり登ること）で登った時もナチュラル・プロテクションを使い、一方ではヨーロッパに住んでコンペに備えていたのだから」

ロサンゼルス郊外で育ったリン・ヒルは少女時代から水泳、体操、中距離走などのスポーツに打ち込み、優れた身体能力を培った。ウエイトリフティングにも挑戦し、ベンチプレスで記録を出したこともある。最も役立ったのはおそらく体操の経験だろう。

クライミングを始めたのは十四歳の時、ジョシュアツリーの岩場でだった。身体機能に加えて精神の集中力が際立っていた。じきに当時最高難度だった「5・10」に達した。十六歳の年にヨセミテに行き、一九七〇年代の最後、マリー・ジンジャーズとともにエルキャプテン正面の有名な「ノーズ」を完登、次いで「シールド」を女性として初めて登りきり、一躍その名を知られるようになる。

コンペに初めて参加したのは、一九八六年、フランスでだった。女性クライマーとしてフランスで大人気の実力者、カトリーヌ・デスティヴェルとの対決が話題となった。この時は二位に甘んじたが、以後九〇年代初めまで、ヒルは世界各地のクライミング・コンペを総なめにした。とりわけ九〇年フランスのリヨンで開かれたワールドカップで、男でもトップの二人しか完登できなかった男子決勝ルートを見事に制して優勝した時のことは、今も語り草となっている。男のできるルートをやり、男にもできない困難にぶつかってゆくのが、リン・ヒルの真骨頂だ。

コンペを引退した後も、活躍は続く。九三年にはエルキャプに戻ってノーズをフリーで登りきり、翌年には同じノーズの「ワンデイ・アセント」をやってのけた。最近では九八年にエルキャプのエルニーニョに失敗したあと、有名なクライミングのメッカ、キャンプ4にある「ミッドナイトライティング」という六メートルのボルダーを女性で初めて完登したことが忘れられない、という。

「身長が低いから無理かな、と思っていたのがうまくできた。エルニーニョができなかったからこそ登れたんだ、とすごく嬉しかった」

ほぼ四半世紀をクライミングの最前線に生きてきたリン・ヒル。今、頭を占めているのは書いている本のことだという。小さな天才女性クライマーの秘密が著書でどれほど明らかになるのか、楽しみだ。

JAC 支部だより

全国各地の支部から、独自の活動状況をリポートします。

秋田支部

平成十二年度定期総会

秋田支部の平成十二年度定期総会が四月二十二日午後四時から、市内のレストランで開催された。

冒頭、支部三役から昨年の支部設立四十周年記念行事終了のお礼や今後の運営協力要請があり、早速議事に入った。

昨年度の事業報告では、設立四十周年記念に関わる記念山行や記念標柱設置、韓国雪岳山、五台山登山報告、男鹿市で行った記念式典、祝賀会の状況などが報告され、収支決算報告、同監査報告とともに満場一致で承認された。

次いで提案された十二年度の事業計画案では、台湾の大武山、韓国の漢拏山と俗璃山の親善登山、紀年や干支のこだわり山行、会報の発行、本会の各種事業への積極参加などが承認された。

一方、少額の予算規模のなかでの唯一の自主財源（？）である支部会費額の値上げ（千五百円に）を提案、これを含んだ予算案も、満場一致で承認された。

本年度は新しい節目の第一歩、新千年紀の始まりでもある。まことに縁起がいい。この機会に、日本山岳会の趣旨と秋田支部の存在を再確認し、磐石の組織を継続させることを参加者全員で誓いあった。

＊会員総数七十二名、出席会員二十名、委任状三十五名。（鈴木要三）

熊本支部

総会で工藤文昭新支部長を選出

工藤文昭新熊本支部長

四月二十三日、熊本市のNTT熊本会館で平成十二年度支部総会を開催した。十二年度事業計画については、恒例の年中行事に加え、昨年に引き続いて、残り四〇パーセントになった県境踏査を実施することが決まった。

また今期は役員改選期にあたり、これまで八年間の長きにわたって支部長を務めた本田誠也会員が退任し、新しく第六代支部長に工藤文昭会員（八一九〇）が就任した。支部長以下の役員は次のとおり。

支部長　工藤文昭
副支部長　神谷平吉
常務委員（事務局）　田上敏行
委員　門脇愛子　馬場博行
　　広永峻一　太田章雄
会計監事　藤本多加志

京都支部会員を迎えて 猪肉と球磨焼酎の夕べ

きっかけは一月に行われた支部新年晩餐会後の二次会の席だった。

初めて支部の例会に出席した京都支部の能田会員（昨年四月に熊本へ転勤、現在熊本支部会友）を囲んで飲んでいたが、話が盛り上がったところで人吉在住の藤木会員から、市房山麓の湯山で猪肉と球磨焼酎の会を開催し、能田会員を歓迎しよう、との提案があった。

酒にまつわる話はすぐにまとまるのがわが支部の伝統で、そのあと計画はとんとん拍子に進み、さらに嬉しいことに京都からも四人の応援部隊（斎藤惇生、四手井靖彦、野村誠人、能田直子）が駆けつけてくれることになった。

四月十五日、熊本空港に降り立った京都支部の一行を出迎え、新緑の五家荘を経由して夕刻、市房山麓湯山温泉のロッジ風民宿に到着した。

総勢二十一名の参加とあって、いささか狭く感じられるほどの会場で、本田支部長による歓迎の挨拶と京都支部一行の紹介の後、早速、猪肉と球磨焼酎の夕べがオープンした。

次々と配られてくる猪肉、鹿肉、地鳥、鮎、山菜などの山の珍味を肴に、本場の球磨焼酎も次第にピッチが上がり、よく飲み、よく食べ、よく歓談して、本当に楽しいひと時を

市房山（1731m）の頂上で

過ごした。

翌十六日は絶好の登山日和になった。湯山集落のすぐ背後に聳える市房山（一七三一メートル）は熊本、宮崎県境に位置し、標高こそ県内第二だが、その品格、歴史から見て県内第一の名山である。登山口から山頂までの標高差が一〇〇〇メートルあり、二日酔いの体には少々こたえるのを覚悟して歩き始める。四合目にある市房神社に至る巨大な杉並木の参道を経て、ブナ、ツガの見事な天然林の中の急登を次第に高度を稼ぎ、ほぼ標準タイムで一等三角点の山頂に立った。斎藤前会長の発声で、今西流直伝の頂上到達の儀式を行った後、各人適当に落ち着いて楽しい食事となり、後は四方山話にふけった。

帰りは稜線続きの二ツ岩まで縦走して下る平均年齢六十歳以下の若者組と、そのまま下る中高年組に分かれて下山し、再び登山口で合流したところで解散した。

今回の京都支部との合同登山は日頃、他支部と交流の少ない地方の支部にとって、またとない交換の機会となり、実に楽しい二日間だった。

お忙しいなか遠くから参加していただいた京都支部の皆さまに厚くお礼申し上げます。

（田上敏行）

岐阜支部

石鎚山へ遠征登山

森本市郎チーフリーダーほか十八名は、五月三十一日から六月三日にかけて、四国の最高峰石鎚山（一九八二メートル）へ遠征登山を行った。

一行は、五月三十一日午後三時に岐阜県庁駐車場に集合し、マイクロバスで出発。大阪南港から四国オレンジフェリー（泊）で愛媛県東予港へ渡り、松山市を経て石鎚スカイラインへ入り、登山口である土小屋へ六月一日午前九時に到着した。

昨夜来雨であったが、低気圧が東の海上へ進み、西から移動性高気圧

さんけんだより

発電小屋の電灯に川の力強さを実感

管理人
木村太郎・弥生

「冬の間は何をしているのですか？」と会員の方によく聞かれます。

山研の開所期間は四月末から十月末まで。それ以外の半年間は実家のある東京で、それぞれアルバイトをしています。お互いに別々の仕事ですが、太陽光パネル設置のアルバイトは二人そろっての仕事でした。

土台を作り、パネルを屋根の上に運んだりと比較的単純な作業ですが、設置後の取り付けられたパネルが太陽の光を受けてキラキラと輝くのを見ると、その達成感は何ともいえないものでした。

私たちがアルバイトに太陽光パネル設置を選んだのは、やはり山研で始まったミニ水力発電が大きく影響しているようです。その工事に多少なりとも携わることができたことで、自然エネルギーに対する関心がぐんと高まりました。

昨年の十一月末に発電小屋が完成し、試運転も大成功。そして五月十五日の月曜日に、地元安曇村の有馬村長や環境庁の広野所長、電力会社、上高地の旅館・ホテルや各施設の関係者、新聞社、テレビ局などの招待者を迎えて「ミニ水力発電装置完工式」が行われました。五十名以上の出席があり、ここでも自然エネルギーへの関心の高さに驚かされます。

山研から五〇〇メートルも離れている善六沢支流から水を取り、その水の力を借りて毎時一キロワットを発電しています。発電小屋に展示されるボックスに六〇ワット電球十個が灯っているのを見ると、そこに川の力強さが映し出されているようです。

この水力発電装置を通じて、改めて自然の持つ豊かさを感じさせられました。山研の生活用水にも利用している善六沢の清水を、極力汚さないための努力をして行こうと思いました。洗剤の量を減らす工夫をしたり、洗剤の代わりに炭や酢を使うといった方法を取り入れるなどできることからはじめ、川の恩恵にほんの少しでも応えていきたいと考えています。

水力発電を通じて、川の豊かさ、強さ、そして脆さも感じています。

に覆われて、今朝は快晴の登山日和に恵まれ、気温は一七度前後とさわやかな朝であった。このあたり標高約一五〇〇メートルである。

登山の身支度を整えて出発した。道幅一メートルほどの歩きやすい、よく整備された石鎚銀座である。ブナ、ミズナラ、ウラジロモミ、カエデ、シロモジ、リョウブなど樹木のなかを登る。たくさんのうぐいすが梢でさえずっていた。メボソムシクイの鳴き声も「ジュリ、ジュリ」と高く樹木の中でさえずっている。

一九二六メートルの鶴ノ子ノ頭の北側の森林帯を抜けると、前方（西方向）に、石鎚山の全容を望むことができた。後方（北東方向）には瓶（かめ）が森（もり）の容姿を望むことができた。登るにしたがって樹木は低木となり、ところどころにツツジの花が赤く美しく咲いていた。石鎚山北壁直下をトラバースして、二の鎖小屋前の鳥居へ着いた。大きな鉄製の鎖を伝って登るルートは避けて、右に巻いている緩やかな登りを、ハシゴ伝いに登って頂上へ着いた。一九八二メートルの天狗岩を往復し、弥山の石鎚神社前へ正午ちょうどに全員がそろい、万歳をして昼食にした。石鎚山頂からの四方の景色を楽しんだ後下山にかかり、土小屋へ三時に下山した。

岐阜から四国の石鎚山へ遠征？

高知市まで下って、ホテル三翠園に宿泊。皿鉢料理と地酒をいただいて十分にくつろいだ。

翌二日は四国第二の高峰、剣山（一九五四メートル）へも登り、再び高知市へ引き返して、高知港から大阪高知特急フェリー（泊）で三日の早朝に大阪南港へ着き、岐阜へ帰った。

（清水芳彦）

北海道支部

新・支部ルームで総会を開催

四月十五日十六時から、秀岳荘白石店ミーティングルームにおいて、本年度の支部総会を開催した。同店三階の新・支部ルームの披露もかねた集会である。会員五十五名が出席し、熱心な討議が続けられた。

はじめに新妻支部長から、昨年実施の支部三十周年事業で、記念登山（七月三、四日）、記念祝賀会（七月二十日）、記念誌『北海道山岳』発行の報告と支援感謝の挨拶があり、議事に入った。

次いで事務局長から報告、提案事項の説明があり、次のような質疑応答があった。

Q 『山岳』（第九四号）二三七ページの支部だよりの中で、支部事務局長の文章に〈北海道四支部制の実現により〉とあるが、東西南北の四支部に独立するというのは総会決定事項か？

支部長 総会では決定していない。二〇〇五年の日本山岳会百周年に向けて、道南、道北、道東地区の会員数を増加するように努力し、実績によって検討課題にしようという方向性を示したもので、〈四地区の充実を図っていく〉と訂正する。

Q 予算に占める予備費の率が大きくないか。予備費の目的は。

支部長 新しい事業として、親子登山教室の開催、中高年登山者に対する啓蒙活動、高山植物盗掘防止ネットワーク委員会に対する支援活動、さらにあってはならないことだが遭難対策諸費用の内容を想定している。新支部委員会で検討して、新年度に向けて新たな項目を設定していきたいと考えている。

平成十二年度委員会構成

支部長＝ 新妻 徹

副支部長＝高澤光雄 向井成司

事務局長 長谷川雄助（会計、庶務、ルーム担当各一名）

監査委員＝井後幸太郎、金井哲夫

この他、山行委員＝六名、道東、道西、道南、道北担当＝各一名、集会担当委員＝四名、海外委員＝一名、自然保護委員＝二名、編集委員＝四名

（長谷川雄助）

日帰りからキリマンジャロ、マッターホルンまで
全国ネットの山旅専門店！
安全で快適な山旅を。中高年からお一人様までサポートします。各コース経験豊富なツアーリーダー同行で安心。
おすすめオリジナルプラン手配OK
人気の山旅スタイル。気軽にお問合せください。
2000年度カタログ
国内246コース、海外111コース、自然に学ぶ旅36コースの総合カタログ（全134ページ）をお送りします。
各地発着それぞれのカタログをご用意しました。送付無料。
アミューズトラベル株式会社
〒160-0023 東京都新宿区西新宿1-22-2 新宿サンエービルB1
☎03（5325）1256 FAX03（5325）1258
大阪06（6456）3366 名古屋052（588）5617 福岡092（414）5566
広島082（502）2525 北海道フリーダイヤル0120（802）514（東京へ転送）

ルートファインディング考・中

橋村一豊

■RFと創造力

将棋の定跡は理論に裏付けられた科学である。しかし人が生きる喜びは科学の支配を超えたところ、創造の領域にあるのではないか。文盲の天才「王将」の坂田三吉は定跡の価値は認めつつも、奇想天外な妙手の発明を偏愛し、大一番になると世間をアッと驚かせる手を指した。彼は科学の奴隷になることを拒否し、想像の世界に遊ぶことを無上の喜びとした。

ところでRFでの虎狼狐の違いは端的にいうと次のようになるのではあるまいか。

狐—地図と磁石によるRF—定跡（科学）のドメイン

狼—道迷いと試行錯誤—科学と創造の境界域（バウンダリー・ゾーン）

虎—地図を使わず自分の目でRF—創造・自然への同化のドメイン

◇

読図—地形図、磁石、高度計によるRF。科学的な方法が不可欠なものでもなく、最上のものでもない。地形図と山の局地、現場とのギャップを洞察と試行錯誤で埋めつつ行く狼クラスは狐よりずっと全地形対応（オールテレイン）でタフである。最上位にくるのが、地形図などとは無縁で、自分の目で見てすぐに判断しルートを探し当て、行きたいところへ行く虎クラスの人である。わが宇治長次郎（山案内人）や、かのデルスウ・ウザーラ（狩人）は虎クラスのスーパースターだった。

故・桑原武夫会員は学者としては傑出した名文家であり、「尾上郷川と中ノ川」という名紀行文がある（初出『山岳』一九三〇年。尾上郷川は白山の別山に発源して庄川に注ぐ長い谷、中ノ川は大汝峯に発して北流し蛇谷と合して尾添（おぞう）川になる）。

イラスト・村上直温

立山山麓から呼び寄せた長次郎を頭とする先祖栄治、山本重松三名を人夫とした彼ら五人は一九二九年八月、下山ルートとして中ノ川を下った。下半の廊下を半分まで下ったところで、そこから下は雨で増水すると渡渉で流される危険があることに気づいて、雨の中を混濁して増水した危険な渡渉を繰り返しつつ湯の谷出合いまで引き返した。そこに泊まって尾根道に出て下山した。翌日その尾根道から中ノ川を見下ろし、昨日の引き返し点はどの辺だろうと皆で論議している時、長次郎がやってきて、はっきりと「あそこまで」と指したのに、桑原はいたく感心する。長次郎は立山山麓の住人で中ノ川は初見であったろう。しかし彼の眼は前日の大汝峯から中ノ川廊下に至る行程で、白山北方稜線のすべての尾根の繋がり、谷の切れ込みを視野に収めて、全地形を心象地図（メンタルマップ）として既に頭の中に掴んでいたかに思える。そうでなければナマの山で一見の下に、ある地点を特定できるものではない。ここで注意すべきことは、長次郎の的確なRFが、直観力や霊感によっているものではないこと、あくまで山の観察をベースにしていることである。その眼力の鋭さは人間離れしてはいるが…。こういう人物に、地形図は無用である。

デルスウ・ウザーラは文字を持たない沿海州の少数民族（ナナイ人、南方ツングースの一部族）で、原始的な森の狩人だが人間性が高尚で徳が高い。彼はアルセーニェフの率いるロシア探検隊を先導して、日本の本州に匹敵する広さのシホテ・アリニ山脈の原生林を往く。絶え間ないRFの旅だが、デルスウの目は類稀なる正確さで目的地への最短ルートを見つけ出す。アルセーニェフは驚き怪しんでその判断の根拠を問うが、いつも返ってくる答は強力で周密な観察と、それに基づく総合判断だった。動物的直感などではないのだ。（ウラジミール・クラウジェウィッチ・アルセーニェフ著、長谷川四郎訳『デルスー・ウザーラ』河出書房新社　一九七五、絶版）

人間が自然と混然一体になる時、自然の仕組みがよく見えて的確なRFが可能になるのではあるまいか。この一体化する心境とは「実相観入」（斎藤茂吉の和歌論）とか、自然（客体）への「住みこみ」（indwelling）M・ポランニー「暗黙知の次元（ザ・タシット・ディメンション）」一九六六）というような、科学的手段を介することのない接近であろう。長次郎やデルスウのような超級虎（スーパータイガー）

は容易に接近（アクセス）し、住みこん（インドゥエリング）で自然と一体化できるのであろうが、私など平凡な狼クラスは、作図を通じて自然にかかわってゆくのが直線的早道のように思う。

■作図がもたらす教習効果と知識変換（コンバージョン）

私のいた大学の山岳部では、今は違うが、その当時には非常に濃密な山行をしていた。二年生の終期になると部山行と個人山行を合わせて二百日から二百五十日の山行日数に達していた。三年、四年になると、一年に百五十日から百八十日は山に入る。四年間の通算で六百日に達する登山経験は、社会人山岳会の十年分に相当する。しかも山行レベルは高い。二年生の終期には、一般登山者の五年以上の経験に相当するものと見て、四年生や先輩の監視の下に行列の先頭に立ったり、ルート工作を先導したり、ザイルのトップを任せたりしてRFをやらせる。適性のない者にはそこそこの指導に止め、素質のある者を集中的に、何人もの指導者の眼が行き届いた状況で鍛錬してゆく。そういう周到で濃密な教育方法の中で、私たちが発見したのは、ルート図の作製をやらせ、その改善を指導すると、それをやらないのに較べRFの力は三倍早く向上するということだった。

◇

作図指導には一緒に登った者か既にそのルートを経験した者が当たるのが最もよい。山へ行く前に作図をしてゆき、それを使って登れば、下山後の修正図は的確でわかりやすくなる。作図した者の頭には山の現場状況に即して行われた思考の過程―観察・識別・進路の決定―がしっかりと根づく。すなわち暗黙知（タシット・ナレッジ）が個人（教師）から集団（受講者たち）に共同化（ソシアリゼート）されたのである。そしてよくできた作図が残れば、それは共有体験の外にいる第三者にも伝達可能な形式知（エクスプリシット・ナレッジ）となって変換（コンバート）されたと（不完全な部分は残るとしても）見ることができるのではあるまいか。

作図の価値は次の四点に要約できよう。

一、山の観察力がつく。観察する要点が明確化し、また不必要な情報のふるい分け（スクリーニング）が早くなる。

二、山の構造とその山が位置する山域の全体像が心象地図（メンタルマップ）として形成され、方向感覚が正確になる。

三、平面的距離に加えて、比高（比較高度の略。相対高度ともいう。ある地点と他の地点の高度差、米俗ではヴァーティカルドロップ）を把握することで山のスケールと空間的広がりが掴める。

四、山々の印象は時の経過につれて薄れ、A山とB山とC山のことが入り交じって混同したりする。作図をやっておけば、応用のきく知見として記憶が蓄えられ、RFの武器になる。

中高年者の日本百名山登りを見ていると行動の類型（パターン）は登山だが、志向は寺廻りで、登山の精神が空洞化している。最も安直なルートから三角点の往復をもっぱらにする。山の他の側、別のルートには興味がない。もっぱらガイド本や指導標を頼るか、先行者の尻ばかりを追う団体登山では、精一杯の速度で歩くので、山や自然を観察するのがおろそかになっている。「早く頂上に着きたい」「早く山小屋に入りたい」「早く下山して家に帰りたい」…とそういう寺廻り志向の行き着く先は「早くお墓に入りたい」となるのではあるまいか。山の自然と一体化する喜びを欠いた百名山登山は、深みがなく、RFの力は全然進歩しない。

■訂正　五月号三ページの表最下段René Descartes "Discours de le Méthode" はlaの誤りです。

●新ハイキング選書●

藤井寿夫著

中央線の山を歩く

A5判・286頁・定価1680円（税込）

中央線の山を歩いて50年、中央線の山107座の紀行と案内。朝立ち、日帰りの範囲内、あまり登山者の歩かれていない山に重点を置いている。読物としても楽しい。　最新刊　増刊出来

●深田クラブ編●

深田久弥の研究

読み、歩き、書いた

飯島斉　高澤光雄　高辻謙輔　深田クラブ編集部 共著

A5判・387頁・定価1680円（税込）

深田久弥の研究に造詣の深い三氏が、深田クラブ会報に、永年にわたり発表された成果をまとめたもの。深田久弥はこの一冊で全貌を顕す。

新ハイキング社　東京都北区滝野川 7-6-13　電話・FAX 03(3915)8110

図書受入報告（2000年5月）

著　者	書　　名	ページ・大きさ	出版元	出版年	寄贈／購入別
白山書房編集部（編）	東京周辺の沢：丹沢・奥多摩・奥秩父・大菩薩・両神山	292pp/22cm	白山書房	2000	出版社寄贈
李容極（編著）	朝鮮名山紀行	253pp/26cm	李容極（私家版）	1999	発行者寄贈
李容極（訳）	朝鮮地理講座	377pp/26cm	李容極（私家版）	2000	発行者寄贈
立教大学登山隊（編）	遠き山：ガッシャブルムⅡ峰登山隊・自然観察隊報告書　1999	235pp/26cm	立教大学登山隊	2000	立教山友会寄贈
高橋敬市	立山・剱・薬師岳　（岳人ポケットガイド No. 1）	142pp/19cm	東京新聞出版局	1999	出版社寄贈
新妻喜永	烏帽子・雲ノ平・笠ケ岳　（岳人ポケットガイド No. 3）	142pp/19cm	東京新聞出版局	1998	出版社寄贈
新妻喜永	燕・常念・蝶ケ岳　（岳人ポケットガイド No. 4）	142pp/19cm	東京新聞出版局	1998	出版社寄贈
新妻喜永	槍・穂高・上高地　（岳人ポケットガイド No. 5）	142pp/19cm	東京新聞出版局	1998	出版社寄贈
中西俊明	南アルプス北部　（岳人ポケットガイド No. 6）	135pp/19cm	東京新聞出版局	1998	出版社寄贈
小川清美	北八ケ岳・南八ケ岳　（岳人ポケットガイド No. 8）	135pp/19cm	東京新聞出版局	1999	出版社寄贈
渡辺千昭	丹沢山塊　（岳人ポケットガイド No. 9）	139pp/19cm	東京新聞出版局	1998	出版社寄贈
渡辺千昭	奥多摩　（岳人ポケットガイド No.10）	138pp/19cm	東京新聞出版局	1999	出版社寄贈
渡辺千昭	奥秩父・奥武蔵　（岳人ポケットガイド No.11）	138pp/19cm	東京新聞出版局	1998	出版社寄贈
高橋金雄	飯豊連峰・朝日連峰　（岳人ポケットガイド No.13）	129pp/19cm	東京新聞出版局	1998	出版社寄贈
仁井田研一	東北の山（1）　（岳人ポケットガイド No.14）	139pp/19cm	東京新聞出版局	1999	出版社寄贈
仁井田研一・渡辺徳仁	東北の山（2）　（岳人ポケットガイド No.15）	139pp/19cm	東京新聞出版局	1999	出版社寄贈
新妻喜永・大森編集事務所	花の山旅・八ケ岳	221pp/20cm	実業之日本社	2000	大森久雄氏寄贈
広域関東圏産業活性化センター（編）	山岳系観光地における環境問題調査研究報告書（平成12年3月）	160pp/30cm	広域関東圏産業活性化センター（編）	2000	森武昭氏寄贈
岩崎元郎・堀川虎男	女性の山：もっと素敵に	166pp/21cm	かもがわ出版	2000	出版社寄贈
深田久弥	深田久弥の山がたり（第1巻）：山嶺の風	314pp/20cm	二見書房	2000	出版社寄贈
深田久弥	深田久弥の山がたり（第2巻）：百の頂に百の喜び	325pp/20cm	二見書房	2000	出版社寄贈
新潟県山岳協会（監修）	新潟　花の山旅	259pp/22cm	新潟日報事業社	2000	監修者寄贈
馬場直之	静岡市周辺の山々：道なき道をも切り拓く　全山域の踏破記録	359pp/22cm	馬場直之（私家版）	2000	著者寄贈
日本山岳会福井支部（監修）	越前・若狭　魅力の日帰り40山	163pp/26cm	福井新聞社	2000	監修者寄贈
栗秋正寿	アラスカ垂直と水平の旅	253pp/19cm	山と溪谷社	2000	出版社寄贈
小林泰彦	山旅浪漫記［画文集］	175pp/22cm	山と溪谷社	2000	出版社寄贈
菅聖子（著）大西暢夫（写真）	山里にダムがくる	236pp/19cm	山と溪谷社	2000	出版社寄贈
成蹊大学山岳部・踏高会（編）	成蹊大学山岳部冬山合宿　鹿島槍ケ岳遭難事故記録（1998年度）	72pp/30cm	成蹊大学山岳部	2000	発行者寄贈
和賀山塊自然学術調査会（編）	和賀山塊の自然：和賀山塊学術調査報告書	299pp/27cm	和賀山塊自然学術調査会	1999	発行者寄贈
Harish Kohli	Across the Frozen Himalaya	296pp/22cm	Indus Publishing	2000	出版社寄贈

会務報告

五月理事会議事録

日時　平成十二年五月十日十八時三十分より二十一時まで

場所　日本山岳会会議室

［出席者］　大塚会長、小倉、大森、竹内各副会長、西村、村井（龍）、森、宮崎、高原、村井（葵）、宮下、鯵坂、増山、坂井、松原、河西、坂本各理事、神崎、中村各監事、平山、中川、平野各常任評議員

［委任］　高遠、勝山各理事、吉永、田邊各常任評議員

【審議事項】

一、会員アンケートの実施（西村）

別添資料により提案された。実施概要として、目的は、会員構成、会員のニーズ等の現状を把握し、中長期のビジョンづくりの基礎資料とする。実施時期は平成十二年十一月とし、その組織は「会員アンケート実行委員会（委員長・西村常務理事、委員・村井（龍）、森、宮崎各常務理事、高原、村井（葵）各理事、遠藤総務委員）」とし、総務委員会がサポートする。　承認

二、山岳四団体による「ヒマラヤ登山者アンケート調査」について（坂井）

日本ヒマラヤ協会より、「海外登山情報センター（仮称）」設立を想定したアンケート調査実施の協力依頼があった（別添資料による）。有意義なことと判断したので、各団体の費用負担（一団体約五万円）について審議願いたい。　承認

三、青年部理事の委嘱　（大塚会長）

三月より空席になっていた青年部担当理事を、常務理事会から推挙があった松原指導・遭難対策担当理事に委嘱する。青年部は重要なセクションとの理解のもと、理事会として重点協力をする。　承認

四、共同通信社よりの写真撮影許可願いについて（西村）

標記につき、エベレスト登頂三十周年特集記事用に当会所有の写真集の撮影許可願いがあった。　承認

【報告事項】

一、会長諮問の表彰制度検討結果について（西村、高原）

四月十五日開催した標記検討会で次の事項を決定した。なお、同日開催の評議員会において了承された。

山岳博物館散歩・3

大町山岳博物館は、北アルプスの麓にたたずむ岳都、長野県大町市にあります。大町は北アルプスへの登山基地として、登山の黎明期である明治時代より多くの登山家が訪れています。

大町山岳博物館が開館したのは、約50年前の昭和26年11月1日。誕生の背景には、地元青年を中心とした市民の奉仕的な活動がありました。戦後の混沌とした時代にあって、戦地から戻った青年たちは新しい文化を渇望していました。その情熱は「博物館建設による地域文化の向上」という目標となり、大町に山岳博物館を設置する動きへつながっていきました。山に関わる資料の収集や研究が続けられ、ついに山岳博物館の開館となったのです。

現在「山と登山」の展示コーナーでは、昭和初期、北アルプスに実在した山小屋を再現するなど、当時の資料を通して日本登山史の遍歴をご覧いただけます。また、「山岳の自然」と題した展示では、北アルプスの高山から山麓に生息する動植物を、ジオラマなどでご紹介しています。

なお、東京のスイス政府観光局が管理していたスイス・アルプス博物館が3月閉館となり、所蔵品すべてが当館に移管されました。ヨーロッパ・アルプスに関わる展示資料がさらに充実。分類整理が済んだ後、閲覧に供することになるでしょう。

（館長・**倉科和夫**）

市立大町山岳博物館

住所：〒398－0002
長野県大町市大字大町8056－1
TEL：0261－22－0211
FAX：0261－21－2133
開館時間：9時～17時
休館日：4～9月無休
11月～翌3月　月曜日（祝日の場合は翌日土日の場合を除き休館、年末年始）
入館料：大人400円　高校生300円　小中学生200円
交通：JR大糸線、信濃大町駅より徒歩25分（タクシー5分）
長野自動車道豊科ICより、アルプスパノラマロード糸魚川方面へ30分（無料駐車場あり）

①現行の規定類（「名誉会員推薦等に関する内規」「会長特別表彰に関する内規」「秩父宮記念山岳賞実施大綱、実施細則」）の文面は変えないで、運用で会長の意向を反映させる。
②名誉会員の推薦年齢を七十五歳以上とする（会長経験者は除く）旨を内規に明記する。
③名誉会員は評議員、役員には就任しない。（内規に明記しない）
④会長特別賞の受賞者を、会員名簿等に記載する。

二、日中友好登山二十周年記念事業について（西村）

四月十三日、曽主席と標記事業の打ち合わせを行った。五月末に中国山岳協会役員改選が予定されており、事業に対する中国側の回答が遅れることが予測される。

三、行事参加報告と予定（西村）

①四月二十二日開催の岐阜支部総会に大塚会長が出席した。
②五月十三日開催の勤労者山岳連盟四十周年行事に竹内副会長、五月二十七日、二十八日開催の山梨支部木暮碑前祭に高原理事が参加予定。

四、各委員会報告

総務委員会（西村、高原）

支部長会議の開催を五月二十日十時三十分より水道橋グリーンホテルにおいて開催する。各支部との意見交換に時間を多くとりたい。

財務委員会（村井龍）

①今月度の会計報告があった。
②中長期の予測事項として、会費（会員数）の延びが芳しくない。入会者はあるが、退会者（死去等による）が多く、この十年で増えた会員数は一千四百二名にとどまる。
③銀行金利が悪く、基金関連の目減りが目立つ。
④築7年を迎える山研施設の維持管理費が今後多く見込まれる。

会報編集委員会（村井葵）

五月号は日中友好登山、橋村一豊氏「ルートファインディング」。

海外連絡委員会（増山）

①四月二十日、アメリカの登山家ジム・ウイッタカー氏が当会を訪問し、大塚会長、海外連絡委員会メンバーと懇談した。
②五月連休にカザフスタンを訪問し、登山協会のカズベク・バリェフ会長等と会談した。

自然保護委員会（河西）

シバプリ基金が今年度は打ち切りとなることが決まった。予算縮小を余儀なくされるが、他の団体等へお願いすることも考えている。

山岳編集委員会（西村＝高遠代理）

第九五年号の編集作業に入った。

百年史委員会（西村＝高遠代理）

現在資料収集中。一部は『山岳』に発表する。今年度中に百年史刊行企画書を理事会に提出予定。各委員会の活動史などは担当理事の協力をお願いする。

ミニ水力発電実行委員会（坂本）

「ミニ水力発電装置」完工式を五月十五日、上高地現地で開催、有馬安曇村村長など約六十名の出席予定。

山研委員会（坂本）

四月二十九日、山研はオープンした。今年は雪が多く山研の周りで一メートル程度の残雪があった。

科学委員会（森、大蔵委員）

①シンポジウム「登山者の立場から山のトイレ問題を考える」を自然保護委員会と共催で、今年十一月に開催する予定。
②第十一次マッキンリー気象観測機器設置登山隊二〇〇〇年（隊長・大蔵喜福、隊員九名）の計画が別添資料により発表された。

アルバータ実行委員会（大森副会長）

準備は順調に進んでいる。募金は現在百七十六万円（百六名）で、目標の三百万円にいま少しだ。マスメディアとしてサンケイ新聞社がBCまで取材したいと申し入れがある。

五、その他

①神崎、中村両監事より、ネパールシバプリにおける石楠花助成金についての監査実施報告があった。
②鯵坂理事より、立教大学ガッシャーブルムⅡ峰登山隊報告書刊行の案内があった。同隊は昨年度の海外登山基金の助成を受けた。

■会員異動

物故

今村和子（一一四九八）99・11・26
細川俊彦（七九九二）00・3・6
畑井喬雄（一二七九五）00・4・15
湯浅充泰（二三八二）00・4・24
井口　勇（四一四〇）00・5・19

退会（5月31日づけ）

池田　進（三五一九）
池田正男（五〇四七）
柳沢　悳（五八三八）
阿岸明子（六〇〇五）
伊藤紀道（六四二九）
原喜代志（七〇二九）
八木原博子（七〇六六）
山下正代（九九六三）
内野祐夫（一〇二四七）
澤田　清（一〇五五八）
野口きみ（一〇六五七）
大森周作（一〇七六七）
牧内　薫（一一一〇〇）
中田昌男（一一二〇八）
大野　毅（一二五三七）

終身会員

滝澤信三（四五七五）
岡田博司（四九二〇）
鈴木耕治（四九五五）
佐藤兼治（五〇九七）
本望英紀（六六七二）

ルーム日誌

5月

8日　総務委員会
9日　常務理事会　アルパインスケッチクラブ　95同期会
10日　理事会　会報編集委員会　99同期会　ジャック93会
11日　学生部　山の自然学研究会
12日　総務委員会　フォトビデオクラブ
13日　新日本山岳志委員会
15日　新日本山岳志委員会　山げら
16日　百年史委員会　図書委員会　集会委員会
17日　山研運営委員会　三水会　アルパインスキークラブ
18日　科学委員会　学生部　遭難対策委員会　アルパインスケッチクラブ
19日　資料委員会
22日　フィルムビデオ委員会
23日　自然保護委員会
24日　学生部　97同期会
25日　インターネット小委員会　学生部　98同期会　土曜会
26日　山の自然学研究会　フォトビデオクラブ
30日　二火会　有志閑談会　山岳編集委員会

5月来室者547名

INFORMATION

イラスト・村上直温

◆自然観察山行

自然保護委員会

高尾山を歩きます。身近でありながら自然がいっぱい、植生も豊な山を高尾森林センターの方が案内してくれます。お気軽にご参加ください。

日時　九月二日(土)
集合　京王高尾山口駅・九時
解散　京王高尾山口駅・十六時予定
申込　八月末日までにFaxかハガキに住所、氏名、電話番号を明記の上、川越尚子宛（〒一八五-〇〇一一　国分寺市本多三-七-三一　Fax〇四二-三二一-六〇五九）

◆ビールパーティ

山研運営委員会

晩夏の風物詩となったビールパーティを今年もルームで開催します。生ビールを飲みながら、楽しい一宵を過ごしませんか。

日時　九月二日(土)　十七～十九時
場所　日本山岳会集会室
会費　二千五百円
＊申込は不要

◆山研プチ・オータムコンサート

山研運営委員会

秋の一夜、ワインと弦楽四重奏でホームパーティーを開きます。仲間と焼岳や穂高岳を組み合わせて、コンサートの参加を計画してみてはいかがでしょう。山研利用のクラブライフを満喫するちょっとおしゃれな企画です。

日時　九月二十三日(土)　十九時開演
会場　上高地山岳研究所
会費　一万二千円（一泊二食、コンサート参加費、ワインつき）
申込　九月十日までにハガキに住所、電話、氏名、会員番号を明記井野千枝子宛（〒一三六-〇〇七六　江東区南砂一-五-三〇-五〇九）
＊事務局、山研への問合せは不可

◆「山川勇一郎の世界―山岳風景と中国の風物」展

油彩、コンテ、水彩約七十点の絵画を展示します。北アルプス登山や避暑に信濃へお出かけの折に、ぜひお立ち寄りください。

会期　七月九日(日)～九月三日(日)
会場　市立大町山岳博物館（長野県大町市大字大町八〇五六　TEL・〇二六一-二二-〇二一一）

❖編集後記❖

通常総会も無事終わり、今世紀最後の年度がはじまりました。総会に集まった老若男女は夢を同じくする紛れもない自然児と認識でき、会場には心豊な波動が満ちていました。

会報編集作業の任期も残すところ一年、最終コーナーを曲がりかけています。スタッフ一同、活力あるクラブ運営を支えるべく、読み応えのある紙面づくりに努力しております。さらなるご協力をお願いします。

六月号で原稿の締め切りは前月の十日（四十日前）と告知いたしましたが、原稿整理の都合上、早めに左記にお送りください。

宛て先　村井葵（〒一九四-〇〇二二　町田市森野三-二-一　Fax〇四二-七二二-五五二八）
パソコンで原稿制作される場合はEメールで奈良原町子宛
narahara@mvc.biglobe.ne.jp
Fax〇三-三三三四-八一一三

日本山岳会会報　山　662号
2000年(平成12年)7月20日発行
発行所　社団法人日本山岳会
〒102－0081
東京都千代田区四番町5－4
サンビュウハイツ四番町
TEL　東京(03)3261－4433
FAX　東京(03)3261－4441
ホームページ：http://www.jac.or.jp
E-メール：jac-info@jac.or.jp
発行者　大塚博美
編集人　村井　葵
印　刷　株式会社　双陽社